プリンセス
小公女セーラ

第1話

『ミンチン寄宿女学院』
（仮）

AR台本

企画
制作　日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第一話　『ミンチン寄宿女学院』（仮）

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン先生……………中西妙子
クルー……………
アメリア……………梨羽由記子
ピーター……………坂本千夏
マリエット……………
パロー……………

エンマ……………向殿あさみ
ジェームス……………
ディファルジュ……………
ラヴィニア……………山田栄子
アーメンガード……………八尾板万紀
ガートルート……………佐々木るん
ジェシー……………中野聖子

カメラ	画面		音声
1	F・I 白い入道雲 海原―― 波がくだけ散る 激しく上下する帆船が波間に見 えてくる（ややFOLLOW）		
2	上下する船首 見えてくるドーヴーの白い崖 騒ぐ客たち　FOLLOW		N 「 」
3	夕方の喧騒のロンドンの街 光るテムズ河に入ってくる帆船		
4	夕陽とシルエットのロンドン 黄色く輝くテムズ河を帆船が行 く		
5	一話サブタイトル		
6	朝早い、スモッグにかすむガス 燈の灯がゆれている　BG　O・L		

7	橋のたもと、紳士と淑女が歩いて去る ←つけPAN スモッグのなかを奥へいく ガス燈消し。馬が見えてくる
8	橋を行く馬車 遠景のシルエットが見えてくる
9	大きく画面を覆うように飛び立っていく鳩
10	ダブルデッカー　FOLLOW
11	街並が見えている。ややあってセント・ポール寺院が見えてくる——ダブルデッカーの客席 FOLLOW（密マルチ）
12	瀟洒な街をダブルデッカーが行く。その一角にT・U O・L
13	三階の建物、枯葉が舞う T・U（カット一杯）　密マルチ O・L

O・L 14	プレートにT・U スーパーが入る 〔ミンチン寄宿女学院〕 MISS MINCHIN Select Seminary for Young Ladies	
15	ヴィクトリア朝の室内 ドンよりした空とレンガ建物、葉の落ちた広場の大木が見える暗い室内。窓辺に立つバロー弁護士を、背をシャンとして見つめるミンチン先生 手前に歩き始めるバロー弁護士	バロー「ミンチン先生……そのお嬢様は、インドではプリンセスのように育てられて来た方ですから……こちらでも特別の御配慮をして頂かねばなりません」
16	ミンチン、微笑を浮べる バロー来て、椅子に座る	ミンチン「御心配なくバロー弁護士……上流家庭のお嬢様は、今迄何人もお預りして参りましたし、いつも御両親から感謝のお手紙を頂いている程でございますから」
17	暖炉の火が暖かそうに燃えている。バロー、身体を前にのり出	バロー「そう伺うと、こちらを推薦した私も安心が出来ます。所で、先日お願いし

	して	た件とは別に、もう一つ注文があります」
18	一寸不満気な表情をするがさりげなく話すミンチンが、ランプシェードに写っている・	ミンチン「……はあ、私共の方で出来ることなら……」 バロー「注文というのは、お嬢様専用の馬車置場をお願いしたいのです」
19	一瞬眉をひそめ、ぎゅっと握られる手──だがすぐ元に戻るミンチンの表情 あきれるミンチンの表情は、軽く侮蔑の笑いが浮んでいる 軽く侮蔑の笑いが浮んでいるミンチン	ミンチン「まあ、馬車まで専用の……」 バロー(off)「さよう、特別注文の、ポニーに曳かせる馬車です」 ミンチン「インドでのお金持ちとはいえ、娘さんに注文の馬車まで用意する親ごさんは初めてでございます……。馬車置場はありますのでどうぞ……」
20		バロー「それに御者は手配してあります。ではお嬢様用の個室を拝見させて頂きましょう」
21	特別室の扉が開き、バロー入って来て見廻して、椅子や他の家具を触って見る──椅子を直す	ミンチン「今日、お二人がお見えになると伺って、模様替え致しておきました」 バロー「成る程……」

	バロー、窓の方へ—— その間に扉をしめるミンチン		
22	顔をくもらせて振り返るミンチン		
23	窓辺に寄りカーテンを開いて見る、もっともらしく点検する PAN←　アメリア出て来て、弁護士の方へ軽く会釈する		S・E（扉の開く音） ミンチン(off)「アメリア！ 寝室は整いましたね!!」
24	一、二歩近づくミンチン、鋭い目付		
25	虚をつかれてはっとなるアメリア、軽く頷く		アメリア「……はい！……お姉様……」
26	目が元に戻るミンチン バローの方を見て軽く会釈をして前へ出ていくミンチン		バロー「拝見しよう」
27	暖炉の上に花瓶をのせて花を直しているマリエット		S・E（足音）

	振り返り、丁寧に挨拶をする	
28	マリエットの前に来て止るバロー、じっと下から見上げる 緊張していたミンチン、ほっとなる――。見廻すバロー	ミンチン「御希望の専任メイドです」 バロー「結構！　仲々礼儀正しいメイドさんだ」
29	ドレッサーとスツール	
30	壁にかかる画	
31	前に出て来て眉を寄せるバロー ミンチン、アメリア、ギクッとなる ミンチン、了解の目礼して、後ろのアメリアに…… アメリア、一歩前に出て バロー頷き、傍のベッドを点検する	バロー「いけませんなこれは……。寝ているお嬢様の頭に額が落ちたら大変です、場所を移して……それに……お嬢様には花の画の方が似つかわしいのでは…」 ミンチン「……アメリア……！」 アメリア「はい、お姉様……早速お取替えいたします」
32	ベッドを調べるバロー	バロー「それに、このベッド……お嬢様がおやすみになるには、いささかお粗末で

			はありませんかな……」
33	ミンチン、前へ出ようとする （何かいいわけをしようと） 途端、アメリア身をのり出して 手を思わず握りしめ、キッとな ってアメリアを睨むミンチン—— え?! といった顔でミンチンを 見るアメリア		アメリア「はい……早速お取替えを……」 ミンチン「アメリア!!」
34	バロー、制して		バロー　「御心配なく、全ての費用は、一切代 理人たる、この私が保証致しますから ……」
35	ほっとなるミンチン、手を下ろ し、ゆるむ口許		
36	バローを先にして寝室から出て くる三人		バロー(off)〜(on)「なにしろ、そのプリンセスの父 親はインドの大金持ちでしてな……一 人娘にかける費用なら、糸目はつけん という可愛がりようでしてな……」
37	止り、振り返るバロー		ミンチン「で……お見えになるお父様とお嬢様

	傍の家具を手でさわりながら		は……」 バロー「三日前、インドから船でお着きになりまして……泊っておられるのは、ホテル・サボイの貴賓室です」
38	驚くミンチン 扉をしめて得意になってミンチンに説明するアメリア はっとなって口をおさえるアメリア		ミンチン「ホテル・サボイ……」 アメリア「お姉様、ほら、王様や貴族がお泊りになる……ヨハン・シュトラウスが毎日オーケストラを指揮してるって、今ロンドン中で大評判の……」 ミンチン「……知っています」
39	テムズ河畔に立つサボイの偉容 T・U（尻止めなし）		M　（ウインナ・ワルツ――春の声、皇帝円舞曲、かな）
40	大ホールでのコンサート（画は止め） PAN→（カット一杯）		
41	ホテルの貴賓室 露台に立って外を見つめるセーラ――右に動いて止る		

42	テラスからの眺め—— 手前にくるセーラ（尻）		
43	テムズの眺め（上流） 少女、寒そうに歩く （つけＰＡＮ）		声 (off) 「セーラ、セーラ」 ←～～
44	スタンドの鳥篭の中のオーム		
45	レーフ・クルーが現れて、手前 の方を見て歩き出す		
46	露台に出てくるクルー ひらりとゆれるスカートの裾		クルー 「セーラ……！　ここにいたのか……」
47	振り返る少女（セーラ） （舞うように） にっこりと笑う（甘えた笑い）		セーラ 「はい……！」
48	手をこすりながら		クルー 「こんな寒いところにいたら風邪をひ いてしまうよ……
49	クルーの前に来るセーラ		さ、そろそろ支度をしよう」

	両頬をクルーの手がつつむ		セーラ「ワー、あたたかい！」
50	柔和に微笑するクルー		クルー「セーラもこの寒さになれなければな……」
51	にっこりとして		セーラ「はい……お父様！」
52	二人、むき合っていたが—— セーラの肩をだき、セーラはその手を握って部屋に入って来る		オーム(off)「セーラ、 セーラ！」
53	止り、見る父娘		
54	ホテルの玄関を出てくるセーラ 父娘（空ブタイあり）		
55	馬車に乗りこむ		
56	エンバンリメントを走る馬車 in—out		
57A	進む馬車　FOLLOW		

57B	目をくりくりさせて外を見つめるセーラの肩を抱いている　FOLLOW		
58	走る馬車　FOLLOW		
59	窓からのり出して見るセーラ　FOLLOW		
60	エンバンリメント公園の冬木立　PAN←		
61	フットブリッジ、列車が渡る　－SL－		
62	後部のガラスをすかして見るセーラ（ロパクあり）		
63	列車が行く　－SL－		
64	ビッグベンが見えてくる　FOLLOW		S・E（ビッグベンの鐘の音）〜

65	はっとなるセーラ　FOLLOW 窓へのり出す、耳をすまして聴いている 笑うクルー		セーラ「ビッグベンの鐘よ!!」 セーラ「すてき……!!　本で読んだとき私想像したの、その音とそっくりよ」
66	せり上ってくるビッグベン FOLLOW（ゴンドラ）		
67			
68	ウエストミンスターが見えてくる にっこりとするセーラ		セーラ「あれは……ウエストミンスター寺院ね」 クルー「セーラはロンドンのことはすっかり本で憶えてしまったようだね」
69	通過して行く馬車		
81	びっくりしているエンマ――ペコペコしている 賄場の方へどなるエンマ 飛び出してくるジェームスを叩		エンマ「申し訳御座いません、お呼び下さればおうかがいしましたのに、院長先生」 ミンチン(off)「ジェームスは？」 エンマ「ジェームス！　ジェームス！」 エンマ「……のろま!!」

	くエンマ。慌てて丁寧に頭を下げるジェームス		ジェームス「これはこれは院長先生！……御用はなんでしょう！」
82	地下への踊り場に立つミンチン		ミンチン「今日、新入生が一人入ります。とても大切なお子様なのです。
83	ミンチンを見つめて丁寧に頭を下げる二人		(off) 二人とも充分に気をつけて接して下さい。特別寄宿生と待遇します」
84	ギュッと睨むミンチン		ミンチン「お腹をこわすような事でもありましたら、ジェームス、あなたを首にしますよ」
85	頭を一層低くたれていくジェームス		
86	すたすたと去るミンチン—— （スカートをつまみ） 頭を下げて見送る二人		
87	学校の前の広場、馬車が行く 枯枝ごしに馬車止るのが見える		

88	馬車から下りる父と娘 見上げるセーラ		クルー「さ、ここだよ！　セーラ」
89	ミンチン学院　T・B		
90	ゆれるびんの髪の毛、見上げているセーラ 一階あたりを見廻すセーラの口ほころんでいる——父を見上げる		声（男の先生）「ラーメル」 声（女生徒）「ラメール」
91	微笑してセーラを見るクルー セーラ、正面を見て歩き始める		セーラ「お父様、ノックしていい」 クルー「いいとも……」
92	スタスタと歩くセーラの足 FOLLOW		
93	石段を昇り始めるセーラ		
94	見送っているクルー		
95	扉口へ行き、間があって 振り返り、目をしばたくセーラ		

96	含み笑いをして歩き出すクルー （out）		
97	緊張した顔で後ろを見ているセーラ。父、来て止る 肩で大きく息をして父を見上げる。微笑して、くるりと扉に向うセーラ		クルー(off)「セーラの学校だよ」
98	手を差し上げるが、とどかない P A N・D　つま先立ちになる		
99	背のびして把手を摑む 満足げな顔をして——二度叩く		S・E（ノッカーの音）
100	微笑しているクルー、セーラも 笑う　—間— 緊張した顔になるセーラ		S・E（カギを開ける音）
101	扉開く、開けているアメリア		
102	グッと緊張するセーラ		

103	アメリア、前に出て愛想よくセーラを見てアメリア笑顔になる		アメリア「クルー様ですね……先程からおまち申し上げておりました……さ……どうぞ……」
104	うながすアメリア。帽子をとってセーラを先頭に入ってくるセーラ、両側の壁をちらりちらり見る		
105	見送るアメリア、扉を閉める		
106	見廻す二人		
107	見廻しながら、一瞬はっとなる		
108	階段で居眠りしていたシーザーが細目をあけて見ているゆっくり立ち上り延びをする		
109	コートをかかえ見つめているセーラ、口許に浮ぶ微笑		
110	下りて来て、尻尾を立てて歩く		

	111	112	113	114	115	116	117
シーザー	シーザー歩く、見つめるセーラ 応接室の方へ歩くアメリア	歩くシーザー（ややFOLLOW） 壁に衝突するシーザー	思わず微笑するセーラ	燃える火　T・B　挨拶を交す 二人（コートを脱いである） 目礼して去るアメリア	見廻すセーラ	家具	家具
				アメリア「申し遅れました、わたくし、アメリアと申します。院長の妹で、この学院の教壇に立っております」 クルー「よろしく……」 アメリア「では、院長を呼んで参ります……おらくになさってて下さい」 S・E（扉のしまる音）			

118	椅子に手でふれる	
119	見廻しているセーラ、椅子に座る。クルー、囁くように 今度はセーラが囁くように クスンと笑うセーラ	クルー「セーラ、仲々優しそうな先生じゃないか」 セーラ「ええ、お父さま……」 セーラ「……院長先生って、どんな方だと思う？」 クルー「さあ……お逢いしてみなければ……」
120	セーラの方を見るクルー	セーラ「きっとメガネをかけていらっしゃると思うわ」 クルー「ほう……」 セーラ「それに、背が高くて……ほんの少しだけど、こわい感じがするの……」
121	身体を起して	クルー「なぜ……そう思うんだね」
122	にっこりとして	セーラ「だって、家庭教師のメレディス先生もそうだったし……私、立派な先生は、みんなそうだと思うの」

123	思わず笑い出すクルー つられてセーラも笑う セーラの手をとって にっこりと頷き 二人、扉の方を向く 二人顔を見合せ、握り合った手を一度振って、急いで立つクルー		クルー　「フフ……フフ……!!」 クルー　「さ……セーラ、きちんとごあいさつできるね」 セーラ　「……もちろんよ!!」 S・E　（ノックの音）
124	扉をあけて入ってくるミンチン 扉をしめて二人の方を見る		
125	きちんと立っている父娘		
126	軽く眼鏡に手を当てて、真っ直ぐ手前にくるミンチン		
127	二人の前に立ち止るミンチン		
128	じっと見つめるセーラ——心もち身体が前へ出るが、はっとなって止るセーラ　T・U（浅く）		

129	じっとして動かない表情、軽く会釈をして、すっと手を伸ばす		ミンチン「……お待たせしました、院長のミンチンでございます」
130	ミンチンの方へ進むクルー 握手する二人		クルー「はじめまして…… レーフ・クルーです」
131	くもっていく表情、半開きの口が閉じられる		
132	握手した手をゆっくりとおろすミンチン		
134	じっと見つめるセーラ はっとなり、クルーの方を見る		クルー(off)「セーラ……！」
135	目でうながすクルー		
136	きりりとなって、ちょんと膝を曲げて挨拶するセーラ		セーラ「今日は……院長先生……セーラ・クルーです。……よろしく……」
137	ミンチン、にっこりとして ほっとするクルーの方へ顔を向けるミンチン		ミンチン「まあまあ……なんて可愛いお嬢様なんでしょ」

138	139	140	141
	じっと見つめるセーラ	T・U（カット一杯）	T・U（頭から） じっと見つめているセーラ F・O
ミンチン「……それに、とてもお利巧そうでいらっしゃる。 (off) お預りしますのは本当に光栄でございます。 ←（こぼし）			

〈前半おわり〉

142A	142B	143
F・I 暖かそうに燃えている暖炉の火	椅子にちょこんと座り、ミンチンを見つめるセーラ	ミンチン、軽く会釈をして
	クルー(off)「いろいろと御無理なお願いをお引受け下さいましたこと…… 心より感謝いたします」 ミンチン「いいえ……それより、私共の方で勉	

			強されること、よく決心なさいました」
144	クルー、セーラを見て		クルー「はあ……実は、この子は四つの時に母親を亡くしておりまして……」
145	じっとクルーを見つめたまま		ミンチン「はい、それはうかがっております」
146	ミンチンを見つめるセーラ クルー、セーラを見て クルー、ミンチンを見る		クルー「淋しくなることでしょうが—— 娘にはインドより、このロンドンで立派な先生について勉強させるのが幸せになると思いまして……」 ← (こぼし)
147	じっとミンチンを見つめるセーラ		ミンチン(on)～(off)へ「そうです、子供の幸せを考えない親がありましょうか。 この学院でも遠いアメリカからもお子様をお預りしておりますし、しつけと教育には充分の経験と 自信を持っておりますから……」
148	じっと見つめるセーラ T・U (ゆっくり)		
149			
150	じっと見つめているセーラ		クルー(off)「……よかったね……セーラ」

	はっとなり、クルーを見る		
	A・C		
151	クルーを見るセーラ		セーラ「ハイ……お父様……」
152	ミンチン、クルーを見つめている		
153	立ち上るミンチン		ミンチン「では……教室とお部屋を見ていただきましょう……」
154	応接室の扉が開いて、ミンチンを先頭に出てくる。手前、教室の方へ歩き出すミンチン		デュファルジェ(off)「ル・ペール」 女生徒の声「ル・ペール」
155	声をきき顔を上げる——ゆるむ口許		デュファルジェ(off)「ラ・フィーユ」 女生徒の声「ラ・フィーユ」
156	ミンチン歩いていき、教室の前へ		デュファルジェ(off)（フランス語で）「よろしい、もう一度」 生徒の声「ル・ペール」
157	肩に手をおき、セーラをうながすクルー、二人歩き出す		

158	扉をノックするミンチン		デュファルジェ(off)「ウイー!!」
159	扉が手前に開いてくる		
160	扉の方を見るデュファルジェ、 メガネをずり下げて——		
161	入ってくるセーラ、はっとなって止る		
162	一斉に見つめる生徒たち PAN→		
163	はっとなるセーラ		
164	先生、机を叩く—— 女生徒たち、一斉に目をそらし 教科書に向う 先生、手前に歩く 生徒、ちらり、ちらり、見る		デュファルジェ「アン・フレール」 女生徒「アン・フレール」
165	ちらりちらり盗み見するラヴィニア		ラヴィニア「………」

166	たじろぎ、手を握りしめるセーラ		ミンチンの声「この学院では特にフランス語の勉強に力を入れております」 クルーの声「なる程……」
167	ミンチン、デュファルジェに軽く会釈する―― デュファルジェも答える		ミンチン「……では」
168	ミンチン、クルー、廊下を行く つづいてセーラ セーラ振り返る		S・E（扉のしまる音）
169	見つめるセーラ		先生の(off)「　」 生徒の(off)「　」
170	階段を昇るミンチンとクルー セーラ、扉を見つめていたが二人の方へ続く		←〰
171	昇っていくミンチンとクルー セーラ来て、振り返る		
172	窓外の冬の立木の枝がゆれている		

173	見つめるセーラ、昇り切った二人、見回しているクルー セーラ、急いで昇っていく		ミンチン「こちらが生徒たちの個室です」
174	昇って来て止り、見つめるセーラ		クルー(off)「成る程……」
175	二階の廊下、いくつも並んだ扉		
176	セーラ、二人を見上げる ミンチン、クルー、三階の方へ		ミンチン(off)「でも、お嬢様には、この上の三階に特別の個室が用意してございます。どうぞ」 ←（こぼし）
177	三階に昇っていく二人 つづいてセーラも		
178	スカートをつまんでoutしていく ミンチン セーラ窓へ寄り外を見る		
179	ふるえている小枝の葉と昇る煙		
180	昇りきる二人、傍の扉をさし セーラ、二人の方を見て階段を		ミンチン「こちらの部屋が私の個室……奥の部屋がお嬢様の部屋でございます……」

	昇りかける		私に近いだけ眼が行き届きます」
181	頷くクルー、手前くるミンチン セーラ昇ってくる		
182A	クルーの傍に行き顔を見合せる クルー目で示し、見るセーラ		クルー　「セーラの部屋はあそこだよ……」
182B	LONG		
183	ミンチン、扉によっていく		
184	ミンチン、特別室の扉の前へ 扉を開けるミンチン		ミンチン「こちらです」
185	入って来て止り、部屋を見回す セーラ		
186	部屋の中　PAN ←		
187	見廻しているクルー、暖炉の方へ 花のところへ来て匂いをかぐ		

188	暖炉とその上を見るクルー 二人、寝室の扉の方を見る		ミンチン「二間続きで、奥は寝室になっています……どうぞ……」
189	ベッドを直しているマリエット （前半のものと異ります） 起き上るマリエット		S・E（扉の開く音）
190	セーラ、クルー、順に入ってくる―― 丁寧に挨拶するマリエット 礼をするセーラ 父娘、見回しながら手前にくる		ミンチン「お嬢様専任のメイド、マリエットです」 マリエット「マリエットです、どうぞよろしく」 クルー「いや、こちらこそ……セーラ」
191	ドレッサーの前にくるセーラ 写っているミンチン 見回すセーラ		ミンチン「マリエット、お部屋の整理は終ったのでしょうね」 マリエット(off)「はい、院長先生」 ミンチン「結構です」
192	出ていくクルーに続くミンチン 丁寧に頭を下げて見送るマリエット、見送っているセーラ		

193	止るクルー ミンチン、満足気に セーラ出て来て窓の方へ		クルー「……仲々清潔な部屋ですな」 ミンチン「気に入って頂ければ幸いです」
194	セーラ振り返り、二人を見て淋しげな表情で窓の方へ行く		クルー「しかし……女の子の部屋としては、いささかもの足りないような……」
195	ギョッとなるミンチン 振り返るクルー 慌てて普通の顔に戻るミンチン ジロリとミンチン、窓辺の方へ目をやる		ミンチン「……う……!!」 クルー「いや失礼……ここにある家具では少なすぎるように思いましてね」 ミンチン「まあ、そんなに沢山の衣類や道具を……」
196	カーテンを見ているセーラ (尻、窓へよる)		
	A・C		
197	クルー、セーラを一寸見て		クルー「寒さ知らずに育ったものですから、ロンドンで少々買い整えましてね、衣裳戸棚と二、三の家具を入れるのをお許し願えるでしょうか……」 ミンチン「勿論結構ですが……」

198	広場を見下ろすセーラ 下を見下ろすセーラ		クルー(off)「それに、大型の本棚も必要です」 ミンチン(off)「本なら図書室にございますが」
199	A・C 公園の前の道を馬車が行く （SL）		クルー(off)「いや、この子は読書好きで、沢山の本をもって来ているのです」 ミンチン(off)「まァ……」 クルー(off)「全くこの子は本の虫でして、まるで小さなオオカミみたいに、いつも新しい本に飢えているのです……それも分厚い、大人の読む歴史や詩の本まで…………」
200	ガラスに息を吹きかけるセーラ 曇っていくガラス、saraと名を描く、消えていく にっこりとするセーラ		
201	広場公園にやわらかい陽がさしこんでいる		クルー(off)～(on)に「……しかし院長先生、この子があまり本を読みすぎるような時は本から遠ざけて、ハイドパークでポニーと遊ばせるとか、人形を買いに出掛けさせるとかして頂けませんか。私としては、この子はもっと人形で遊ぶ位の方がいいと考えているので」
202	クルー、ミンチン、椅子に座って話している		
203	クルーとミンチン		
204	振り返るセーラ（真剣な顔）		セーラ「お父さま……」

205	クルー、ミンチン、セーラの方を見る セーラ、真剣な顔をして父の方へ		クルー「なんだね、セーラ」 セーラ「私が欲しいのは、 エミリーだけなの……御存知でしょう？」
206	父の傍に来て止るセーラ		
207	怪訝な表情のミンチン		ミンチン「エミリーって誰方です」
208	セーラを見て微笑するクルー ミンチンを見る		クルー「……これから探して、買う事になっている人形の事なのです」
209	あきれるミンチン		ミンチン「まあ、その人形に、もう名前を？」
210	セーラとクルー		クルー「ええ、この子の頭の中に住んでいる友だちなのですよ」
211	とってつけたように振り返り見るセーラ		ミンチン「……なんて想像力豊かなお嬢様なんでしょう」
212	笑うクルー 愛想笑いをするミンチン		クルー「全くこの子の想像力には私もついていくのが大変な程でしてね」 「（笑い）」

	セーラ、ミンチンを見つめている		
213	二人の笑い声の中でじっと見つめているセーラ		クルー(off)「所で、小馬に曳かせる馬車は？」
214	セーラ、クルーの方を見る		ミンチン「間もなく届く筈でございます。バロー弁護士がロンドン中探して、可愛い小馬を見つけられたそうです……」
215	口許に浮んでいる笑いのセーラ クルー、セーラの方を向き、手をとって 目を輝かせ 微笑して頷くクルー にっこりとするセーラ		クルー「有難う……セーラ、小馬の名前はもう決めたのかね」 セーラ「ええ、お父様、ジャンプよ！」
216	唇をゆがめて見つめるミンチン		
217	クルー、ミンチンの方を見て笑顔で		クルー「……この通りなのです」
218	ミンチン、追従笑いをする ミンチン、扉の方を見る――		ミンチン「まあ……（笑い）……」 S・E（扉の開く音）

No.	画面		台詞
	クルー、セーラも続いて振り返る		
219	アメリア、入って来て丁寧におじぎをする、起き上り		アメリア「お姉様、小馬と馬車が参りましたが」
220	喜ぶセーラを見て微笑を浮べるクルー		ミンチン(off)「そう、早速見て頂きましょう」 アメリア(off)「それが……」
221	目をそらし、言いよどむアメリア		ミンチン「どうしたのです、アメリア」 アメリア「頼んでおいた御者が、急に来られなくなったとかで、代りに子供が……」
222	立ち上るミンチン 顔を見合せるクルーとセーラ		ミンチン「なんですって！」
223	足音高く階段から下りてくるミンチン		
224	扉が勢い良く開いて、姿現わすミンチン		

225	ポニーを撫でていた少年（ピーター）振り返る		
226	道の方を見てキッとなる（ゆがむ口許と眉間に寄るしわ）まばたきせず前へ歩き出す		
227	ピーター、緊張の面持ちで歩道に上り、帽子をとり、一呼吸おいてぴょこんと頭を下げる入ってくるミンチン、裾を風が撫でる		
228	ミンチンの鬢の毛が風でゆれるセーラに続いて走り出てくるクルー、にっこりとして止るセーラ、振り返り		セーラ「ジャンプよ！
229	ジャンプ		
230	父の手を握りみつめるセーラ 微笑を返すクルー 手を離すセーラ		お父さま!!

231	裾を翻して舞いおどるセーラ		ジャンプがいるわー!!」
232	微笑するピーター はっとなり身を堅くして帽子を 握りしめるピーター		ミンチン(off)「一体どういうことです!」
233	はっとなって止るセーラ、髪が ゆっくりとおさまる		
234	ミンチンの前に項垂れるピーター 風がミンチンの裾をゆるがす		ミンチン「……何故父親が来られないのですか!!」 ピーター「……実は……父さんが……怪我をして動けなくなっちまったんでーす」
235	じっとみつめるミンチン、風で ほつれる髪		
236	握った帽子をぎゅっ、ぎゅっと 握りしめながら上目使いに 肩をふるわせるミンチン		ピーター「それで、出来たら……代りに……ぼくを使って頂けないかと……」 ミンチン(off)「なんですって!!」 ピーター「父さんが……そう……おねがいするようにって……」
237	ミンチン		ミンチン「とんでもない! 大切なお嬢さん専

		用馬車の御者を子供にまかせるなんて ——！　あなたの親御さん……
238	益々小さくなっていくピーター	(off)　無責任すぎます！」 ピーター「すいません……でも、ぼくが働かないと、父さんや、病気の母さんが……」
239	風がほつれ毛をゆらす	ミンチン「そんなことより、おあずかりしたお嬢さんに、万一のことがあったら、どうするんですか!!」
240	一度はミンチンを見上げるがうつむき、帽子を強く握るピーター。風でゆれるミンチンの裾とピーターの服の裾、寒そうである	
241	目をこらして見つめるセーラ	
242	ぐっとひと睨みするミンチン	ミンチン「……お帰りなさい、代りの御者はこちらで手配します」
243	はっとなり目を上げるピーター	

	悲しそうである、口唇をかみしめている。風が髪の毛を撫でいく	
244	立ちつくすピーター 風がミンチンの裾をゆらしている	
245	力なくうつむくピーターに頬をよせてくるポニー	
246	にっこりとするセーラ 後ろのクルーの手をとり握りしめ やさしくセーラを見るクルー	セーラ「お父さま……」 セーラ「きっと大丈夫よ……私のジャンプ……は可愛いくて、おとなしいから…」
247	驚くミンチン、二人の方を見て	ミンチン「……お父様……子供に馬車の取扱いは無理ではないでしょうか」
248	軽く目礼するクルー クルー、目礼してピーターの方へ	クルー「ミンチン先生の御心配り有がとう御座います。差しつかえなければ、一寸少年と話をしたいのですが……」 ミンチン「ええ……どうぞ、判らずやの少年を説得して下さいませ」

249	眉をよせ下目使いで硬直しているピーターの前に来て微笑するクルー。ぽかんとなり、口を薄くあけて見上げるピーター 口許がゆるむピーター、てれくさげに頬をかく―― にっこりするクルー ピーター、クルーを見つめる	クルー「君……名前は何ていうのかな……」 ピーター「……ピ…ピーターって……いいます……」 クルー「ピーターか……いい名前だな……」 クルー「……ところでピーター君、ミンチン先生の心配されていることは当り前のことなんだ……それは判るだろ」
250	ぴょこんと叩頭するピーター 傍に来てポニーの首すじをなでるセーラ 明るい笑顔で見るピーター ポニーをやさしく撫でるセーラ	セーラ「……ウフフフ……!!」
251	笑顔で二人を見て馬の方へ歩くクルー	
252	ポニーをためつすがめつしながら	クルー「ポニーを良く手入れしてくれたのは

	にっこりするピーター	君かな……」 ピーター「はい!!」
253	クルー、二人の方を見て	クルー「……馬車の扱いはどうかな」 ピーター「父に教わって、ずっと練習してますから……」 セーラ「お父様! きっと上手よ、だってここまで届けられたのですもの!」
254	元気よくのり出して にっこりとして振り返りピーターを見るセーラ。ピーター、はずかしそうにセーラを見る	ピーター「ええ……!! 人には負けないくらいに……!」
255	クルー、ピーターを見つめて大きく頷き	クルー「ミンチン先生、娘の気持を買って、この少年を傭ってみることにしたいと思いますが」
256	一瞬苦虫を嚙みつぶした顔が、笑顔になるミンチン、軽く頷き	ミンチン「まあ……なんて思いやりの深いお嬢様なのでしょう」
257	喜びの笑顔になるセーラと顔が	セーラ「ワーッ!!」

	ほころぶピーター 身を翻して父の方へ走るセーラ		ありがとう、お父様
258	クルーの傍に行き、笑顔で見上げだきつくセーラ。クルー、やさしく見つめる（肩をだき） （目を細めて頷くクルー） クルー、ミンチンの方へ向き 軽く会釈をする		クルー「ミンチン先生、こちらの希望を全てかなえて頂き、安心して明日はインドへ発つことが出来ます。有がとう御座いました」
259	茫然と姉を見つめるアメリアと 軽く会釈をするミンチン		
260	ポニーの首にしがみつき喜ぶピーター ヒヒーンといななくポニー		ピーター「よかったな！　お前と一緒に働けて!!」
	A・C		
261	顔を見合せて笑う父と娘		
262	じっと立ちつくすミンチン		

263	夕方のスモッグにけむるロンドンの屋根（密マルチ）　PAN← 遠くかすむセントポール寺院	
264	街角――時計は四時過ぎている そそくさと行くポリス	
265	篭をもった女性がガス燈の下をそそくさといく ピーターの馬車がくる	
266	嬉し気にむちを振るピーター FOLLOW	
267	ダブルデッカーの向うを抜くように現われるピーターの馬車	
268	窓外を見て驚く女	
269	ダブルデッカーを抜いていく （混雑を縫うように行く）	
270	ダブルデッカーを抜いていくピ	

	271	272	273	274	275	276
ーターの馬車　FOLLOW	デッカーより見て感心している 乗客、ポニー馬車奥へ FOLLOW	顔を見合せて微笑するセーラ クルー、つられて微笑する FOLLOW　前を見る二人	元気に馬車を操るピーター	冬木立の奥を行く馬車 FOLLOW　(密マルチ)	馬車上の三人　FOLLOW 父を見つめるセーラ—— クルー、前を見ている	クルー、セーラを抱きしめる—— セーラ、微笑で返す FOLLOW
						クルー「……どうだったね、セーラ……学校は気に入ったかね」 セーラ「ええ……!!」

277	じっと見つめるクルー FOLLOW	
278	懸命に明るくするセーラ、顔を胸にうずめるように	セーラ「私、一生懸命勉強して、インドへ帰ったらお母様の代りに……
279	甘えるセーラ FOLLOW 微笑するクルー	晩餐会のおもてなしが立派に出来るようになるつもりよ……」 クルー「……ありがとセーラ……お父さんはそれを聞いてとても嬉しく思ってるよ……」
280	スモッグに煙る太陽	
281	見つめ合う父娘 FOLLOW にっことして元気に答えるセーラ	クルー「……セーラはしっかりした良い子だから、きっと頑張ってくれるね」 セーラ「ええ……お父様……！」
282	クルー、優しくセーラを抱きよせ、頬を手で包む。セーラ、手に顔をこすりつけるようにして甘える FOLLOW	（←激情！→）

283	ビッグベンの彼方にかすむ太陽		S・E （ビッグベンの鐘の音がきこえる）
284	三人の乗った馬車が行く FOLLOW		N 「私は、遠いインドへ発つお父様を心配させないよう、じっと悲しさを耐えていました……お父様と一緒にいられるのは、もう明日までしかなかったのです」
285	セーラにT・Uしていく F・O		

〈おわり〉